

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770400010		
法人名	社会福祉法人 榕樹会		
事業所名	グループホーム沖縄一条園		
所在地	沖縄県沖縄市与儀3丁目5番10号		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigvsoyoCd=4770400010-00&PrefCd=47&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvsoyoCd=4770400010-00&PrefCd=47&VersionCd=022)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成28年10月11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天窓があり室内は明るく、フロアは広くバリアフリーで、壁には利用者の趣味の季節の作品が飾られており、又、天気の良い日は庭で花を眺めながら体操・歌などを行い、コーヒーも摂り、おしゃべりで和やかに過ごします。一人ひとりの好きな歌を集め、空き時間に皆で歌を歌ったりもします。雨天を除き午前・午後、おしゃべりや歌を歌いながら建物の周囲を1周します。外気浴の効果により去年一人も風邪をひいていません。併設のデイサービスが日曜日休みによりデイサービスに行き、マッサージ機やカラオケを使用し癒されています。グループホーム沖縄一条園は家庭的雰囲気の下で一人ひとりの生活のリズムに合ったゆったりした生活を援助しています。又、本人や家族の意向や出来る事を尊重しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の庭は緑が多く閑静な場所に立地している。1日2回は建物周辺を散歩したり、天窓がある明るく広々とした室内フロアで平行棒による歩行訓練等を実施し身体機能の維持に努めている。同法人の特養施設等が併設しており、職員は月1回の法人の研修会に参加したり、利用者の健康相談や災害時の協力を得ている。また、法人内の施設で週1回開かれている喫茶店に利用者に参加したり、日曜日に法人通所サービスのリハビリ器具やカラオケを使用して気分転換を図っている。生け花や書道等の趣味活動やそれぞれの宗教活動等入居前の活動が継続して行なえるような環境作りをしており、また毎日の生活の中で、洗濯物たたみや食事の盛り付け、食器洗い等それぞれの利用者ができる事を活かし残存機能が発揮できるように支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 28年 11月 23日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティング(申し送り)で管理者が先頭に唱和し、利用者を母親の様な気持ちで接し明るく、安らぎのある家庭作りを心がける	管理者と職員が共に策定した理念を掲げ、1年に1回は全員で見直しをしている。毎朝の申し送り時に全員で唱和し、利用者を尊重しつつ家族のような明るい環境作り等を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	施設のある自治会には加入し、自治会長を運営推進会議に参加いただいております。当法人の高齢者支援センターが担当地域になっており、活動する。又、法人の夏祭りには近隣の方々を招き一緒に楽しむ	月1回の自治会の作業や利用者の出身地域の生きがいデイに差し入れを持参しながら利用者と職員が参加している。また、定期的にボランティアを受入れ草刈り作業や行事に参加してもらっている。	事業所から地域へ出向く機会はあるが、地域住民を事業所へ受入れる機会が少ない為、今後は更なる地域との関係作りや事業所へ受入れる環境作り等の工夫が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の症状は個人個人違い対応も異なる。現に入所者の症状や対応の方法を伝え、必要時は協力を惜しまない旨伝え、困っている事に相談にのっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	業務内容を常にオープンにする。入退院を繰り返す家族から役所への苦情を運営推進会議で話し合い、グループホームは認知症対応にて医療面が必要な利用者にはその旨説明し納得してもらい、契約書にも追加する	年6回開催し、利用者、家族、行政職員や民生委員、自治会長が参加している。会議では事業所の活動報告やヒヤリハット報告を行っており、次回開催の案内文と一緒に前回の議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所からの紹介や措置入所も受け、介護が困難な場合や、苦情や対応を相談し助言を得る事が出来ている。又、役所の方が運営推進会議にも参加されパイプ役になって貰っている	事業所が行政に提案し市内のグループホーム連絡会を設立した。運営推進会議に高齢福祉課担当が参加しており、相談や意見交換を行なっている。また、市からの困難事例の受入れ依頼にも対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束しない」の方針(契約書にも謳われており職員は心得ているが、同じ入居者が同じ状況で転倒し、家族と転倒の都度対策を話合うも再度転倒してしまった為、家族の強い要望にてベット柵を3本にするが検討会を開催し、1か月未満で撤去する	研修の参加等で職員は身体拘束をしないケアについて理解し取り組んでおり、居室の窓や出入り口は施錠していない。緊急やむを得ない理由で使用していた3本のベッド柵については家族の確認書や経過観察記録、検討会等の手続きもきちんとなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人やグループホームでの勉強会を行い、管理者、職員は認識し、職員間で態度、言葉使いを注意し防止に努め、問題点はその都度、職員会議で話し合い原点に戻る		

沖縄県(グループホーム沖縄一条園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者2名成年後見人がついており、成年後見人の役割はある程度管理者、職員は理解し、成年後見人との連携も取れている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は言うまでもなく、変更や改定時も契約書や重要事項説明書に沿って説明し、不安や疑問にその都度分かりやすく説明し、理解・納得してもらえるように努め、同意・捺印を得る事が出来ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、本人の状況を伝え、グループ便りで活動などを報告し、家族感想や意見、要望などを尋ねたところ、職員の名前が分からないと受け、ユニホームに名前を入れる。名札を付ける。	家族とは年2回の家族会の開催やアンケートを実施し意見や要望を聞いている。家族から利用者の好きな食べ物を聞き入れ提供したり、利用者の希望で初詣の行き先を変更した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	園長や管理者は月の職員会議に参加し、おやつは手作りにしたい、果物を提供したい、安全を考慮し、早出勤務を30分早くしたいなど職員からの提案を受け入れる	全職員が参加できるように月2回の職員会議を開催し意見や情報交換を行なっている。職員の提案で利用者の安全を考慮した勤務時間の調整をしたり、人員確保のためにパート職の配置や、職員の待遇面を法人に伝え改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や提案を聞く機会を常時設け、今回職員より常勤を65歳にし、その後は非常勤で勤めたいとの提案を受け入れ、4月から実施する		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園外での研修には交代で参加し、法人での研修が年間で計画されており、グループホームから勤務時間外の職員は参加し参加できなかった職員にも伝達しスケールアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会や沖縄市グループホーム意見交換会に管理者が参加し、内容もミーティングにて報告し、改善すべきところは改善し、良い所は参考にし業務に活かす		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自己紹介から入り雑談をしながら本人の困っている事、不安な事をゆっくり本人のペースで静聴し安心感が得られるような関係作りに努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申込み時点からサービスの利用状況や家族の困っている事、苦労などをゆっくり静聴し信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学相談(電話、来所)時、本人の状態、家族の思いを聞き、必要なサービスが受けられるように担当ケアマネジャーとの相談を促す		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を母親の様な気持ちで接するとおのずから優しさが出る。常に自分だったらされたくない事は相手にもしない様にとの気持ちで接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、一緒にお茶を飲みながら必要に応じ職員が入りお喋りをする。レク時は一緒に参加してもらおう。行事にも参加してもらい関わりを多く持てるように努めている。病院受診は家族が行い家族とひと時過ごせるように図る		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅のある公民館での当て布カット(ボランティア)生デイ、行事に管理者と継続して参加する。信仰する教会の集いに週2回家族と参加する。又、家族、知人、友人の面会も歓迎する	利用者の出身地域の行事や自治会活動に職員や家族と一緒に参加したり、入居前から利用していた「生きがいデイ」への参加も介護計画に位置付け、馴染みの関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の食事やお茶の時間は職員も一緒に座り、皆でおしゃべりを行う。又、皆で歌、レクが出来る環境づくりに務め、席の配置も人間関係が上手く行くように考慮する		

沖縄県(グループホーム沖縄一条園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年2人の方が併設の特養入所により退所。1人が病院入院になる。家族が埼玉により病院側が成年後見人の承諾を得、入院になる。経過を家族に伝え、何度かは家族より電話が入り対応する		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長年、夜の仕事をし昼夜逆転の生活によりその生活リズムを変える事が出来ず、色々本人の好きなこと趣味を見出しやって貰うが、なかなか上手く行かないが無理強い無く本人希望の昼夜逆転を直す生活を試行錯誤する	日々のケアの中で表情や行動から汲み取ったり、入居前のアセスメントや家族からの聞き取りでそれぞれの思いを把握している。新聞を独自で購読したり、生け花や書道等趣味活動を継続して行なえるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前アセスメント(自宅や利用するサービス機関での)を行い。また、ケアマネからの情報収集し、入所後も会話の中から収集に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な1日の流れがあり、活動を行うが、心身の状態を考慮しそれなりに対応し無理強いはしない。又、日々の支援で出来ることを見出し発揮できる環境づくりに努め、一人一人の好きな歌を聞き、機会あるごとにみんなで歌う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録や職員からの意見、本人家族の思いや意見を反映させ、問題や変化が発生した場合のケアについて、又、職員が疑問に思っている事を毎朝の申し送りで話し合い本人や家族に確認し現状に沿った介護計画を作成する。	更新時や状態変化時にサービス担当者会議を開催し利用者や家族、担当職員が参加し意見や要望を反映し作成している。個別の計画に沿ってサービスを実施し、半年に1回や状態変化時に見直し計画を変更しており、変更後は全職員が閲覧できるように朝のミーティングで周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録(24時間)に食事、水分、排泄、睡眠、服薬、介護計画の遂行状況、バイタル、身体状況を記録し、始業時に申し送りを行い、情報を共有し、介護計画や評価に活用する		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に受診は家族やヘルパー(有料)が対応する事になっているが体調不良時、家族やヘルパーでの対応が難しい場合は、園長や管理者が行う。又、家族に支援が得られない入居者には一緒に買い物にでかける		

沖縄県(グループホーム沖縄一条園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに公共の施設があり、四季の花々や野菜、沖縄独特の植物があり時折り散歩する。又、併設のデイサービスの器具(カラオケやマッサージ器)を活用する		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に家族と一緒に受診する。バイタル表と情報提供書(家族へ説明)を提供し、その用紙に医師のコメントが有ったり、病院からの情報提供書、口頭で家族から説明を受ける。必要に応じ管理者が受診に立ち会う事もある	利用者全員、入居前からかかりつけ医を継続している。定期受診時や他科受診時も家族対応を基本としているが、家族が対応できない場合は、管理者や園長が同行することもある。受診時には情報提供書をお持ちいただき、受診結果は家族から聴取し、内容は即日職員へ周知している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護師や訪問看護を受けている入居者もないが、異変などの場合、隣接する特養の看護師に相談し、助言を得、受診などに繋いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院での環境変化により混乱が少ない様に見舞いを行い、病棟の看護師との情報交換、病状の把握、ケースワーカーとの情報交換を管理者で行う		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、当施設には看護師が不在により、重度や週末ケアが出来ない状況を説明し、そのような場合は退所の方針である旨、説明し了承を得る	利用開始時の重要事項説明時に、重度化した場合や医療ケアが必要になった場合は事業所の方針として、特養や病院へ繋げる旨の説明を行い、家族の承諾を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回法人の職員研修で消防隊員指導の下、救命蘇生法を一人ひとり実践し、AEDの操作も学ぶ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設する特養、デイサービス、ヘルパー事業所の協力を得、日中や夜間を想定した防火訓練を2回行い(1回は消防立ち合い)実施する。沖縄県広域地震・津波避難訓練に参加する	避難訓練は昼想定で2度、併設の事業所と合同で行っている。うち、1回は夜想定から変更での実施となった。地域の参加もあり協力体制が作られている。備蓄は3日分保管されている。	

沖縄県(グループホーム沖縄一条園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に1回法人の職員研修で接遇を学ぶ、今年も5/20法人の職員研修:接遇(敬語、尊敬語)グループホームからも4名参加し、業務で参加できなかった職員には資料で勉強し、研鑽を積み、仕事に活かす	日頃から丁寧な言葉使いを心がけ、職員は研修で「接遇」を学び、現場で活かしている。信仰心の厚い利用者の気持ちを汲み、唱題を日課に取り入れたり、ダンスが好きな利用者のためにさまざまな社交ダンス関連のDVDを集め、楽しんでもらえるよう働きかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い利用者には筆談での意思疎通を図り、思うように言葉が出ない利用者には慌てないでゆっくり落ち着いて話すように声かけ、自分の思いや感情を表現し、自己決定出来る環境づくりに務めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れを持っているが、一人ひとりの心身状態や思いを考慮し柔軟に対応する。(その日の状態で散歩や運動、入浴など柔軟に対応する)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診など外出時はよそ行きの服装に着替える。お化粧の習慣のある方へは化粧品を準備する。髪をとく、クリームを付ける支援を行う。又、入浴のない日の着替え、汚れた場合着替える		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設の特養厨房でまとめて調理するが、時々野菜のこしらえを手伝う。盛り付けや食器洗いも職員と一緒に。苦手の食べ物は代替えで提供。週に1回は入居者の好きな菓子パンが朝食に出る。食事は職員、入居者一緒に摂る	併設の特養から栄養士の管理のもと調理されたメニューを3食配食している。器への盛り付けと、毎食後の洗い物を手伝う利用者もいる。利用者全員マイ箸、マイカップを使用している。職員は利用者とテーブルを囲み談笑しながら食事を摂っている。おやつはホットプレートを用いて、職員と一緒に手作りしてい	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みの悪い入居者にはトロミを使用し、咀嚼の悪い入居者には刻み食を提供。糖尿病や肥満、心不全の入居者にはカロリーや水分を考慮する		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいの声掛け、誘導を行い、出来る事は本人にやってもらい出来ない部分を介助する。理解の乏しい入居者も焦らず本人のペースで行い、義歯は夜間洗浄液につけ汚れや臭いを予防する		

沖縄県(グループホーム沖縄一条園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、全員(9名)トイレで行う。排泄パターンを把握し、声掛け、誘導を行い失敗が無いように支援する。日中は出来るだけ綿パンツの使用を心掛ける	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握している。間隔を見ながら声掛けを行うことで失敗がないように努めている。日中は全員トイレでの排泄を支援している。トイレはドアとカーテンを二重に取り付けプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起き掛けに全員に水分150cc提供、1日の水分摂取1500ccを目標にし、牛乳、ヨーグルト、玄米を提供。散歩、体操など体を動かし、排便-2日目は起き掛けに冷たい牛乳を提供し、腹部マッサージを施す		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回程度だが、外出や本人、家族の希望を取り入れ、入浴を嫌がる入居者には時間をずらしたりタイミングを見計らう。無理強いはなく、翌日に回したり、午後を午前に行うなど柔軟に対応する	入浴は週に3回を基本とし、個浴で同性介助を行っている。本人が入浴を嫌がる時は無理強いせず、時間を置いて声掛けをしたり、翌日に変更するなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のリズムや体調、希望を考慮し昼間の休息や睡眠がとれるように配慮する。昼間は出来るだけ活動して頂き、夜は良眠できるように努めている。主治医の了解の元、寝る前の薬の時間をずらすなど工夫する		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬に変更がある場合は、申し送り帳へ記入し職員間で把握する。ケースごとにも説明書を入れ常時確認することが出来る。服薬で疑問の場合は、薬局に相談し、助言を得る		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者より好きな歌を聞き歌詞をそらえ、時間を見つけては皆で歌っている。趣味活動での生け花、習字、踊りなどで生きがいを図る。タオルたたみ、チリ箱づくり、食器洗いなど無理のない様に出来る範囲で力を発揮してもらう		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩、外気浴は欠かさず行い、ピクニックに行きたいとの声で家族の協力を得、皆で花祭りを見学に行く。定期的に自宅のある公民館でのボランティア、生デいに職員と一緒に参加している。又、家族との外出も勧めている	散歩や周辺散策を日課としている。中庭で音楽を流し、体操をしたり、皆で歌を歌う等、日々楽しみごとや気分転換等の支援をしている。定期的に家族と外出を楽しめる方や、個別でドライブに出掛ける方もいる。	

沖縄県(グループホーム沖縄一条園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	直接所持はしていないが2人の入居者のお金を管理者が預かり、使用する際、本人に渡してから支払ってもらっている。他の入居者は後見人より預かり花代や病院の支払い、日用品の購入その都度伝える		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話で話せるように家族にも協力を得ている。不穏時にも電話で家族の声を聴き落ち着ける様にする。手紙のやり取りができる入居者は今のところいない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり明るく、フロアは広くバリアフリーで壁には入居者の趣味の作品が飾られており、又、天気の良い日は庭で体操、歌などを行い、コーヒーも摂り、おしゃべりしたり和やかに過ごすことが出来ている	採光や喚起のための天窓があり、フロアは広く明るい。リビング中央に対面式キッチンがあり、フロア全体は死角なく見渡せる。歩行リハビリ用の運動器具もあり、利用者は軽い運動を行ったり、ソファに座ってテレビを見たり、和室で寛いだりと、思い思いの場所で過ごせるよう工夫されている。こまめに強酸性水を吹付けることで消臭や乾燥を防いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが2か所にあり、友人と一緒にテレビ見たりおしゃべりしたりする。もう一か所では、リラックスしたり、入居者同士、入居者と職員でおしゃべりをする		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、家族や本人に使い慣れたものや好みのものを持参される様話すが、殆どの入居者が園のものを使用する為、曾孫が作った祖母の顔絵入りの作品や本人の作品を飾る	居室は洋間7部屋と和室2部屋あり、全ての居室は掃き出し窓で建物を一周できる。部屋の壁には本人が製作した作品や家族写真を飾っている。棚に人形をコレクションしている方や、化粧品を置きおしゃべりを楽しまれる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室、いたる所に手すりを設置、玄関、居室、トイレ、浴室をバリアフリーにする。洗濯物は入居者が個人個人で干せるように物干しスタンドやハンガーを利用するなど工夫する		